

第八戒「盗んではならない。」

1 なぜ「盗んではならない」のか？ 第八戒の神様の理由。

「人のものを取っては（盗んでは）いけませんよ」。誰もが小さい時から言い聞かせられて来た教えです。しかし第八戒においては、「人のもの」だから取ってはいけないのではなく、「神様が他の人に与えられたもの」だから取っては（盗んでは）ならない、とされているのです。その場合、何が違ってくるのでしょうか？

2 「私は盗んだことなどない」と本当に言えるか？

「私は盗んだことなどない」と思うかもしれません。しかし、「他の人に神様が与えられたもの」を盗むということから考えると、そう簡単に言えなくなります。今の時代の私たちが「自分は盗んだことなどない。自分の力で富み、盗まないでいようように努力している」と言うなら、神様は、「いいや、お前は私が彼女に与えたものを盗んでいる」と言われるかもしれません。なぜか？ 先進国と開発途上国の貧富の差はますます大きくなり、先進国内でも格差社会と言われるような社会となり、貧しい者がそこから抜け出すことが難しい社会構造を維持することに私たちも加担しているかもしれないからです。

3 「盗む」ものは物だけではなく、その人の尊厳をも盗む。

第七戒で「姦淫してはならない」を教えられました。これも他の妻夫を「盗む」行為であり、自分の妻夫を悲しませ、人間関係を破綻させてしまう大きな罪でした。第十戒はこの「盗み」の罪をより具体的な内容を挙げて示し、その根が人間の欲望にあることを教えています。十戒の締めでもある「一切欲してはならない」という強い言い方は、人間の欲望が、ただ挙げられた様々な「物」を盗むだけでなく、それに伴って物以外のモノ、人の尊厳をはじめ、人が心の中に持っているモノまで奪い取ってしまう大きな罪であることを教えられます。

4 今の錯綜した世界をこの第八戒の教えから考える。

世界は今の原油高騰状況に対する打開策は見出せず四苦八苦しています。この第八戒の語りかけにしっかり聞くこと、聞いて神様が喜ばれる方向に皆で舵を切り替えていくこと、それが案外一番早い解決策、戦争が止み、平和が訪れ、収穫が増え、環境に配慮して、全ての被造物が喜び合い、神様も喜ばれる世界になる道かもしれません。